

自由集会要旨

高山の鳥は面白い・・・かも？ —日本における高山鳥研究の可能性と展望—

呼びかけ人：白木彩子・上田恵介

日本における高山の鳥の研究と言えば、すぐにライチョウ研究と思われがちだが、高山には独自のスズメ目鳥類が、独自の生態を持って、高山の厳しい環境に適応して生活している。しかし乗鞍岳でのイワヒバリ研究など一部の例外を除いて、日本では高山のスズメ目の鳥をテーマにした研究は少ないし、高山に生息する鳥についての私たちの知識も乏しい。

たとえばホシガラスやキクイタダキは、近年まで巣も見つかっていなかった。コガラやヒガラム、同じカラ類のエナガ・ヤマガラ・シジュウカラと比較すると、まったく研究されていない。

行動生態学のモデル研究とも言われる Davies のヨーロッパカヤクグリの研究は、ロンドンの植物園の個体群で行われたが、同じ属の日本のカヤクグリも、同様にしろ面白い配偶システム・社会関係を持っていると思われる。

ヒバリやノゴマ、ピンズイなど、平地と高地に分断または連続した個体群を持って生息している高山帯耐性鳥類の個体群特性の比較も、生態学的に重要なテーマである。

地球温暖化が議論される中、高所に島的に存続している高山の鳥は絶滅の危機にあるのかもしれない。カラスの高山域への進出はこれらの鳥へ現実の脅威である。高山鳥の研究は、保全生態学の観点からも現代的な意味をもっている。

しかしまだ日本の鳥の研究者は、アプローチや登山技術の問題などもあって、あまり高山の鳥に目を向けていないのが現状である。

この自由集会では高山の鳥研究の魅力と、その将来への発展可能性を語り合いたい。

趣旨説明：(白木彩子)

話題提供 (仮題)

中村雅彦・松崎善幸：カヤクグリの繁殖行動

上田恵介：本州の高山ヒバリはどこから来たのか？

白木彩子：大雪山における高山帯耐性鳥類 (Alpine torelant bird species) 研究の試み

中村雅彦・小林真知：高山に進出してきたカラス

総合討論